

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2023/02/06号

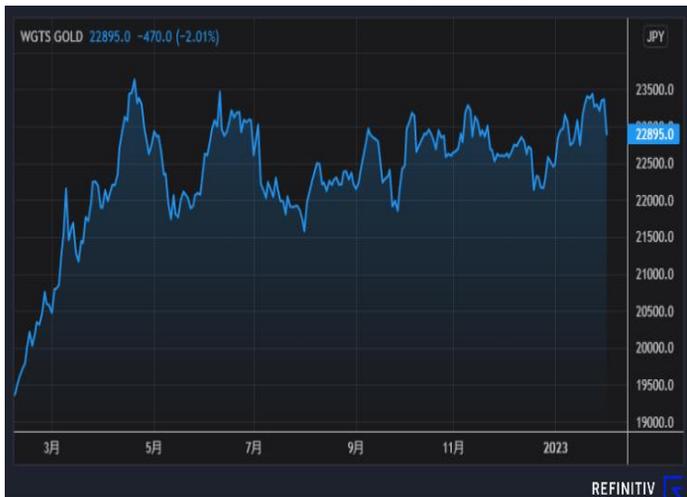
一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

1950ドル越えのあとの1900ドル割れ

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



FOMCそして雇用統計とまさにローラーコースターのような一週間となりました。FOMC前にゴールドは利食い売りが先行、1930ドルから1900ドルまで下げる場面がありましたが、そこは支えられてFOMC終了前には1930ドルまで戻して行って来いの相場となりました。そしてFOMCが終了、政策金利は予想通りの0.25%上げ。これはマーケットには完全に織り込み済みでほとんど反応なし。その後のパウエル議長の会見で、disinflationをという言葉が多用し、インフレの勢いが収まりつつあること強調したことで、まだインフレには勝利していない、金利下げは考えていないという部分はほぼ無視で、「ハト派」的と受け取ったマーケットはリスクオンの動きとなり、ゴールドは大きく上昇1950ドルを超えました。1950ドルは重要な節目とみられています。しかし残念ながらここから大きく上昇することはできず、結局1950ドルを割り込むと失望売りが膨らむという結果となり1950ドルをこえていたのは1日も続かず、1920ドルへ戻しました。先週も書いたとおり、ゴールドは11月から300ドル上げ、年初からも7%以上上げていたことを考えると当然利食い売りが出てしかるべしでした。しかし1900ドルは底堅く、ここからゆっくり上昇していくと期待していましたが、金曜日の雇用統計はその期待を大きく揺らがせるものでした。非農業部門雇用者数の市場予想は18.5万人増に対して発表された数字は51.7万人増という驚きの数字となり、失業率も3.4%と53年ぶりの低いレベル。つまり米国の雇用市場は絶好調であり、FRBが3月のミーティングで利上げをやめるということを期待していた向きには全く逆の数字が出たということになります。これを受けてドル買い、金利上げとなり、ゴールドは大きく売られ、1900ドルを割り込みその後も下落を続け、1865ドルまで下げて一週間が終わりました。ここは長期的には絶好の買い場になる気がしますが、まだロングが残っているとすればもう少し下押しもあるかもしれません。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

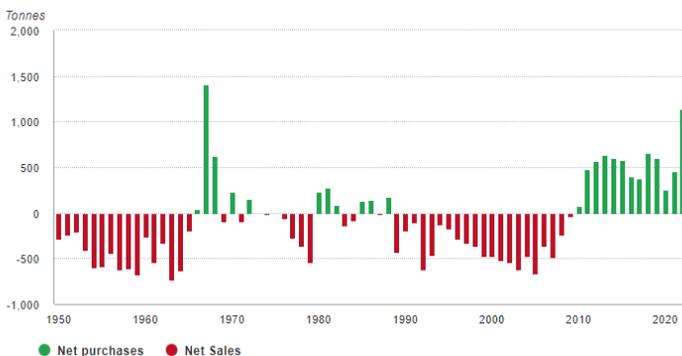
【マーケット・トピック】

「2022年中央銀行の爆買い」

先日WGCから発表された2022年の中央銀行のゴールド買いは総計で1136トン。これは1967年以来の圧倒的な大きな数字。Q3で400トンの買いに驚きましたが、Q4でも結局同じだけの量を中央銀行が買いました。これもまた「匿名」の中央銀行とされており、どこが買っているのかは明らかにはされていません。1967年には1400トンものゴールドを買ったのは主に西欧の中央銀行で、当時はドル金本位制で、米国が1オンスのゴールドと35米ドルの交換を保証していた「ブレトンウッズ体制」の元で、ドルを米国に持ち込みゴールドを引き出したということでした。当時米国はベトナム戦争の戦費調達のためドルを刷りまくり、ドルの価値が大きく下がっており、そんなドルを保有しておくよりもゴールドを保有することが有利とみた欧州の中央銀行がドルからゴールドへ資産を移動させたのです。その結果、第二次世界大戦後は2万トンを超えていた米国の金準備は8100トン余りに激減し、それがニクソンショックを招き、ブレトンウッズ体制終焉の大きな要因となりました。そして、それ以来のゴールド買い。今度は新興国がその買い手。今度は米国中心世界のドル本位制が崩れる前兆かもしれません。

(中央銀行の金売買の記録)

Central bank buying in 2022 was the second highest on record*



Sources: Metals Focus, Refinitiv GFMS, World Gold Council; Disclaimer

*Data to 31 December 2022.



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

